

5 遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究

(技術安全課)

1 趣 旨

近年、遺伝子組換えのダイズ、ナタネ、トウモロコシ等が食品や飼料の原料として大量に輸入される等、遺伝子組換え作物は国民にとって身近な存在となってきた。我が国においても、機能性成分を蓄積する米など消費者に直接的なメリットのある作物の開発が進んできている。

このような状況に対応し、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」の適切な運用を図る観点から、現在、研究開発が進められている遺伝子組換え生物の生物多様性影響の評価に必要な科学的知見を集積する。

また、我が国での遺伝子組換え作物の商業利用に向けて、遺伝子組換え作物を栽培する農家と一般作物等を栽培する農家が共存していくための技術開発等を行う。

2 研究内容

- (1) 生物多様性影響評価に必要な新たな遺伝子組換え生物に関する科学的知見の集積
- (2) 遺伝子組換え作物の安全・信頼の確保のための管理技術の開発
 - ① 遺伝子拡散防止等安全性確保技術の開発
 - ② 新たに流通が見込まれる遺伝子組換え作物の検出技術等の開発
- (3) 遺伝子組換え作物と一般作物等との共存のための技術開発
- (4) 海外諸国における安全性確保研究や安全性評価の事例等の分析

3 研究実施主体

農業環境技術研究所、農業・食品産業産業技術総合研究機構、農業生物資源研究所、森林総合研究所、林木育種センター、水産総合研究センター、(株)三菱化学安全科学研究所

4 研究実施期間 平成18年度～22年度

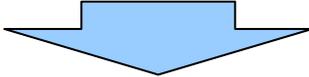
5 平成18年度概算決定額 508,456 千円

6 達成すべき成果

- (1) 生物多様性影響評価に必要な科学的知見の集積
- (2) 遺伝子組換え作物からの遺伝子拡散を防止するための生物的封じ込め技術の開発
- (3) 遺伝子組換え作物の検出技術の開発
- (4) 遺伝子組換え作物が一般作物等と共存するための技術の開発
- (5) 遺伝子組換え作物を栽培している国等における安全性確保研究等の事例収集及び分析

遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策(拡充)

遺伝子組換え生物の生態系への影響や作物との交雑に対する国民の懸念



遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究(拡充)

生物多様性影響評価に必要な新たな遺伝子組換え生物に関する科学的知見の集積

- 実用化が見込まれる遺伝子組換え生物の生物多様性影響評価のための研究
- 遺伝子組換え生物の生物多様性影響に関する科学的指摘を解明するための研究

カルタヘナ法に基づく適切な生物多様性影響評価の実施

遺伝子組換え作物の安全・信頼の確保のための管理技術の開発

- 遺伝子拡散防止等安全確保技術の開発(生物的封じ込め)
- 新たに流通が見込まれる組換え遺伝子の検出技術等の開発

適切な管理技術による安全・信頼の確保

遺伝子組換え作物と一般作物等との共存のための技術開発

- 商業栽培を想定した交雑リスクを低減させる栽培技術の開発
- 流通における混入リスクを低減させる管理技術の開発

商業栽培に向けた環境づくり

海外諸国における安全性確保研究や安全性評価の事例等の分析

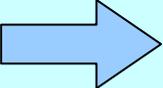
遺伝子組換え作物等に関する意識調査事業(新規)

- 対話を通じた意識把握
- 分かりやすい情報の発信

一体的に実施



遺伝子組換え技術の適切な使用



国民生活、食料・環境問題への貢献